

夏のスーツメンテナンス ～酷暑に負けない衣類のケア～

監修：クリーニング総合研究所

～スーツはハンガーに～

スーツは必ずハンガーにかけましょう。厚みのあるハンガーが最適。スーツの肩幅に合った厚みのあるハンガーを使うと型崩れを防げます。同じスーツを続けて着ないことがスーツを長持ちさせるポイントです。きちんとハンガーにかけて休ませている間にシワも取れます。

～ブラッシングを欠かさずに～

ジャケットを脱いだらまずハンガーに掛け、全体をチェックしながらブラシをかけましょう。一日着たスーツにはホコリ等が付着しています。

～スーツをしまうとき～

クリーニング後にスーツをしまう場合は、通気性のある不織布のスーツカバーを使いましょう。シーズンオフに収納しているスーツはカバーをかけて収納することで、ホコリや汚れ、日焼けから守ることができます。クリーニング店の空気が通らないビニールカバーは保管には適していません。受け取った後すぐに取り外してください。



～定期的なクリーニングのすすめ～

汗をかいたスーツはなるべく早くクリーニングに出しましょう。汗がもとになってシミやカビの発生や虫食いの要因になります。シーズン中、汚れがひどくならないうちにこまめにクリーニングに出すことが理想です。

～夏のスーツにはダブルクリーニング～

汗をかいたスーツにはドライクリーニングに加え、汗の蓄積を除去するダブルクリーニングをぜひご利用ください。ちなみに人は冬でも汗をかいています。冬シーズンも着用状況に応じてクリーニングを！

ダブルクリーニング

本紙では、ドライクリーニングに加えて本来水洗いできない衣類に付いた汗汚れ等の水溶性汚れを落とすために、ウェットクリーニング（衣類への影響を抑えた水洗い）を併せて行うことと定義しています。

～クールビズでも・・・～

クールビズでスーツのパンツのみの出番が多い夏ですが、スーツをクリーニングに出す際は、できるだけ上下一緒に出しましょう。

～シミがついたら！～

シミがついたらすぐにクリーニングに出しましょう。その際シミの種類をクリーニング店に伝えると、なおベターです。シミを放置すると虫食いの原因になることがあります。

『伝えましょう あなたの衣類のストーリー』

着用状況を受付の係にお伝えいただくと、クリーニング店で衣類にとって最適な処置をご提案することが可能になります。